

平成29年度  
四倉中学校

# 学校だより

7月7日（金） 第13号

文責 校長 中根 猛

## 性に関する指導教室を開催しました

7月4日（火）、3年生を対象に「性に関する指導教室」を開催しました。講師は、福島県立医科大学地域産婦人科支援講座教授でいわき市立総合磐城共立病院産婦人科医師の本多つよし先生です。先生には、昨年もお越しいただきご講話をいただきました。この後、緊急手術が控えているという中で「10代の性が危ない～10代の性感染症の現状を考える」というテーマでお話していただきました。まず、「性」とは、生きる心。「性」とは、男女が豊かな人間関係を築いていく上で必要な心。相手を思いやる心であって決していやらしいことではないと強調されました。そして、思春期の体の変化、二次性徴について、受精の仕組みと妊娠出産についてスライドを示しながら説明されました。1回の射精で3000万個の精子が放たれそのうちのたった一個の精子が受精する。いわば、3000万分の1の選りすぐりのあなたたちに今何が起きているかと問題を提起されました。それが、性行動の活発化と低年齢化です。そのために10代の人工妊娠中絶が増えていること。特にいわき市は、県や国の平均よりも高いことを示されました。しっかりとした知識を持って自分で自分の体を守る必要を力説されました。

次に性感染症について種類や症状について話されました。近年、非常に増加している梅毒。その他淋病、クラミジア、ヘルペス、尖圭コンジローマ、B、C型肝炎についてです。年代別、性別では、若い世代の女性の患者が多いこと。症状の出にくい男性が女性に移してしまうこと。そして、生命に係わるエイズ。先進国の中では、日本だけが増えていると警鐘を鳴らされました。そして、性感染症の特徴として「薬が効かない感染症が増えていること。症状が出にくいので移してしまうこと。症状が全身に広がること。」をあげられました。また、統計的には、「低年齢化。女性に多い。全体として増加傾向。」の三点を示されました。

防ぐためには、「性交または、それに近い行為をしない」ことを繰り返し力説され、性行為には、自分と相手の健康、希望、夢に責任を持つ心構えが必要だと話されました。そして、性行為は、赤ちゃんを作る以外に意味はない。だから結婚をして子供を作ると決めた確実な相手以外との性行為は雰囲気流されないでプライドを持って断る。恋愛とSEXは、無関係と念を押されました。

いわきの人工妊娠中絶の多さに危機感を持ち、激務の中にあっても中学校、高等学校で性教育の講座を開いている本多先生ならではの説得力にあふれるご講話でした。3年生の皆さんは、実に真剣な態度で話に耳を傾けていました。本多先生から「聞く態度が真剣なのでつい熱が入ってしまった」とお褒めのことばをいただきました。最後に保健委員会委員長の鈴木咲弥さんがお礼のことばを述べました。とても充実した1時間でした。

## 県中体連陸上競技大会が開催されました

7月4日（火）～6日（木）、郡山市開成山陸上競技場で県中体連陸上競技大会が開催されました。本校からは、6名の選手が出場しました。気温30度の暑さの中、選手の皆さんは健闘しました。5日に行われた5種目では、予選を通過することはできませんでしたが、6日に行われた女子走り高跳びで2年生の酒井美沙登さんが8位に入賞しました。出場した6名の内、5名が1、2年生です。県大会のステージに立てたことは、これからの練習の励みになると思います。新人大会そして次年度の大会での活躍に期待したいと思います。

## 富岡支援学校との交流活動を行いました

雨天のために延期となった富岡支援学校との交流活動の2回目を7月6日（木）に実施しました。「協力して掃除をしよう」を目当てに掲げて清掃活動を行いました。交流したのは、前回、顔合わせを行った1年1組の皆さんと富岡支援学校中学部の10名の皆さんです。海岸沿いを徒歩で移動し、ファミリーマート裏側に位置する植栽地帯のゴミ拾いを行いました。たばこの吸い殻や食品の包み紙など数袋のゴミ袋が一杯になるほど拾い集めました。ゴミ拾いの途中では、お互いの良さを発見しようというテーマで交流する機会も作りました。相手の良さを発見してことばで伝えている素敵な姿も見られました。